

分野5 豊かな心を育み人と文化が輝くまち「ながの」(教育・文化分野)

政策1 未来を切り拓く人材の育成と環境の整備

施策1 乳幼児期から高等教育までの教育の充実 …施策番号 28

施策2 子どもに応じた支援の充実 …施策番号 29

施策3 家庭・地域・学校の相互連携による教育力向上 …施策番号 30

政策2 豊かな人生を送るための学習機会の提供

施策1 生涯学習環境の充実 …施策番号 31

施策2 学習成果を活かした地域づくりへの参加促進 …施策番号 32

政策3 魅力あふれる文化の創造と継承

施策1 多彩な文化芸術の創造と活動支援 …施策番号 33

施策2 文化の継承による魅力ある地域づくりの推進 …施策番号 34

政策4 スポーツを軸としたまちづくりの推進

施策1 だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進 …施策番号 35

施策2 スポーツを通じた交流拡大の推進 …施策番号 36

政策5 国際交流・多文化共生の推進

施策1 国際交流活動の推進 …施策番号 37

施策2 多文化共生の推進 …施策番号 38

内 容			単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値	
					R4	R5	R6	R7	R8	(R8)	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	知（学力）・徳（豊かな心）・体（体力）を一体的に育成し、子どもがたくましく生きていくための教育が行われている		%	(R3) 43.2	41.6	39.2	38.3			↗
	R 6 年度実績値の理由	地域の子どもたちが生き生きとたくましく教育活動に臨んでいる姿を肯定的に捉える一方で、「先生によってクラスに差がある」「子ども一人ひとりを観察して寄り添える学校現場の環境、余裕が必要だと感じる」など年代が高くなるにつれ肯定的回答の割合が低くなっているためと考えられる。									
	回答者自身の実践状況①	(設定なし)		-	(R3) -	-	-	-	-	-	—
	R 6 年度実績値の理由										
統計指標	全国学力・学習状況調査における国語、算数、数学の平均正答率	・小学校 6 年生（国語、算数） ・中学校 3 年生（国語、数学） の平均正答率（全国を100とした指数）		全国比	(R元) 小学生 国語103.4 算数100.6 中学生 国語101.6 数学100.3	小学生 国語102.1 算数98.1 中学生 国語100.0 数学99.2	小学生 国語99.7 算数99.2 中学生 国語98.8 数学98.0	小学生 国語100.4 算数99.4 中学生 国語99.8 数学97.1			小学生 国語103.4 算数100.6 中学生 国語101.6 数学100.3
	R 6 年度実績値の理由	学校教育課	「自学自習の資質能力の伸張」を目指し、全国学力学習状況調査の分析結果から、探究的な学習の充実や習熟度に応じた授業改善等を積み重ねてきたことで、小・中学校ともに、全ての教科で概ね全国並みの結果となっている。								
	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において全国平均値を上回った種目数	・小学校 5 年生（8 種目） ・中学校 2 年生（9 種目） について、全国平均値を上回った種目数		全国比	(R元) 小学生 男子 6 女子 5 中学生 男子 6 女子 4	小学校 男子 5 女子 5 中学校 男子 6 女子 5	小学校 男子 5 女子 3 中学校 男子 7 女子 6	小学校 男子 6 女子 3 中学校 男子 5 女子 4			小学生 男子 6 女子 5 中学生 男子 6 女子 4
	R 6 年度実績値の理由	学校教育課	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析結果から、体力向上育成事業や教職員研修等を実施し、各校の体力向上に向けた取組の充実を図ってきたことで、小学校においては、全国平均値を上回る種目数が増加した。中学校では減少傾向も見られたが、体力合計点は全国を上回っている（全国比 男子104.8 女子101.4）。								

統計指標	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における運動やスポーツに対する意識及び運動時間に関する質問項目	- 運動やスポーツをすることが好きと答える児童生徒（小学校5年生、中学校2年生）の全国比 - 授業以外の1週間の運動時間が60分以上の児童生徒（小学校5年生、中学校2年生）の全国比	全国比	(R元) 運動好き小学生 男子100.3 女子95.6 中学生 男子96.8 女子90.7 運動時間小学生 男子102.3 女子101.4 中学生 男子102.2 女子97.2	運動好き小学生 男子101.2 女子103 中学生 男子100.2 女子98 運動時間小学生 男子99.1 女子94.3 中学生 男子98.3 女子96.1	運動好き小学生 男子102 女子102 中学生 男子100.2 女子99 運動時間小学生 男子101.3 女子97 中学生 男子97 女子93	運動好き小学生 男子102 女子102 中学生 男子99.8 女子97.1 運動時間小学生 男子100.0 女子95.6 中学生 男子98.2 女子95.0		運動好き小学生 男子100.3 女子100 中学生 男子100 女子100 運動時間小学生 男子102.3 女子101.4 中学生 男子102.2 女子100
	R 6 年度実績値の理由	学校教育課	市の運動習慣形成事業や各学校の体力向上に係る取組の充実を図ったことで、令和元年度と比較し、運動好きの割合は向上している。一方で、新型コロナウイルス感染症による活動制限等を経験したこともあり、運動時間が減少している。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	「しなのきプランⅡ（令和6年4月策定）」に基づき、「知・徳・体の一体的な育成」に加え、「認知能力と非認知能力の一体的な育成」等を重点として、自ら問いをもち、自ら学びを進め、共に育っていくための資質・能力の向上を図った。 授業改善・充実に向けて、指導主事による対話を中心とした学校訪問を175回実施した。また、信州大学と共同開発した「しなのきFinder」を活用して子どもたちの心の状態や非認知能力を可視化しながら、子ども一人一人のよさや強みを活かした教育活動の推進を実施した。 運動意欲の向上や運動習慣の形成を図るための小・中学校の体育授業等の改善充実に向け、教職員を対象に「体育授業しなのきモデル」普及訪問を10校で実施した。「しなのき わくわく運動遊び」、体力向上グッと！プラン」と他のスポーツ教室事業を統合し、小1から中3までを対象に、新たに「アスリートと楽しむスポーツ教室」としてスポーツ課との連携で165学級で実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
「しなのきプランⅡ」における、子どもたちの心の状態を把握しながら対話を重ねることや、「認知能力と非認知能力を一体的に育成することの重要性」に学校や家庭の一層の理解が必要である。	子ども一人一人の「よさ強み」を認めながら、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、一人一人の学びの個性を大切に育んでいく必要がある。 児童生徒が日常的に自ら運動に親しめる多様な運動機会を提供する必要がある。また、運動が苦手な児童生徒が運動に親しめる取組を工夫する必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
「しなのきプランⅡ」の取組を一層充実させるため、市教育委員会と「『自ら学び 共に育つ』学校づくり事業」における研究指定校（5校）及び基幹校の市立長野中での取組を市立小・中学校に展開するほか、職員研修や学校訪問、解説動画やコンセプトブック配付などを活用し、学校と家庭に向けて「非認知能力の育成」につながる取組を推進していく。 児童生徒が生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図るために、教職員を対象にした学校訪問や関係部局と連携したスポーツ教室により、発達段階に応じて子どもたちの運動意欲を高める取組を推進していく。	

1 施策の概要

施策番号	29 (5-1-2)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	未来を切り拓く人材の育成と環境の整備	担当課	学校教育課
施策	子どもに応じた支援の充実		
施策の 目指す状態	不登校やいじめに悩む子ども、様々な特性のある子ども、社会的援助を必要とする子どもなど、子どもに応じた適切な支援の下、関係機関等と連携し、一人ひとりに合わせて安心安全に学習に取り組んでいる。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール	○			○		○	○										○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	子ども一人ひとりが大切にされ、安心して学習に取り組める相談・支援体制が整っている	%	(R3) 42.7	43.7	40.4	39.4		↑
	R 6 年度実績値の理由	前年より0.9ポイント減少した。「先生たちが忙しくて回っていない感がある」「クラスの数が多い、教員不足」「ひとりひとりのための学習体制整っているとは思わない」等の意見が寄せられ、否定的評価割合が高くなったためと考えられる。							
	回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(R3) -	-	-	-	-	-
	R 6 年度実績値の理由								
統計指標	新規不登校児童生徒の在籍率	児童生徒のうち、新たに不登校となった児童生徒の割合	%	(R3) 小学校 0.61 中学校 1.89	小学校 1.02 中学校 2.87	小学校 1.89 中学校 3.72	小学校 1.58 中学校 2.16		前年度の国の数値を下回る
	R 6 年度実績値の理由	学校教育課	令和6年度は、新規事業である教育支援センターSaSaLANDの開所や校内教育支援センターの支援員配置、フリースクール等利用料助成事業等により、校内外の居場所が拡充されたことで、新たに不登校となった児童生徒の割合が減ったと考えられる。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	- 各校に担当指導主事を「さっと学援隊」として派遣し、不登校やいじめなどの学校諸問題に対し早期対応を行ってきた。 - 登校支援については、教育機会確保法に基づき、新たな教育支援センターの開所や小学校に校内教育支援センターを担当する支援員を配置し、校内外で児童生徒の居場所を確保するとともに、民間施設等と連携し、居場所の情報提供を目的としたフォーラムを開催した。また、全ての小中学校のスクリーニング会議にスクールソーシャルワーカーを派遣し、課題を抱える児童生徒の早期発見と早期対応を図った。 - いじめについては、市立全小・中学校において、各校の「いじめ防止等のための基本的な方針」などに基づき、組織的にいじめの早期発見・早期対応を行った。いじめ問題が起きた学校へ、弁護士や心理等の専門家である「長野市いじめ問題等調査員」を派遣し、早期解決に向けた支援を行うように指導した。 - 教育支援委員会では、一人一人の教育的ニーズを踏まえた総合的な観点から就学判断を行い、保護者と合意形成の上、就学先を決定した。 - 特別支援教育支援員及び医療的ケア看護職員を配置し、発達特性や医療的ケアのある児童生徒等への支援を継続的に行った。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
・登校支援については、不登校児童生徒全ての学びの場の確保に向けて、学校内外の居場所の更なる充実が必要となっている。 ・いじめに対する教職員の意識向上により、本市におけるいじめの認知件数は増加している。事案に対し、教師による抱え込み防止や組織的な早期対応がより一層重要である。 ・障害者差別解消法の施行やインクルーシブ教育システムの推進の流れの中で、医療的ケアも含め、様々な特性を持った児童生徒の市立小・中学校への就学が増えており、基礎的環境整備の充実が一層必要となっている。	SDGsの理念である「誰一人取り残さない」という視点をもち、不登校やいじめに悩む子ども、障害のある子ども、社会的援助を必要とする子どもなど、一人一人の子どもに応じて、適切な支援にあたっていくことが一層必要となっている。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
・学校で起こる様々な問題について、引き続き「さっと学援隊」を派遣し、解決に向けた支援を行う。 ・登校支援については、市内8か所の教育支援センターや市独自で支援員を配置した校内教育支援センターにより、不登校児童生徒の受け入れ拡大を図るとともに、フリースクール等民間施設と連携し、一人一人の状況に応じた居場所の確保を推進する。また、新規事業の訪問型アウトリーチ支援事業により、自宅にいる児童生徒への支援の充実を図る。 ・いじめ問題については、「いじめ防止対策推進法」に基づく組織的な対応や初動対応の重要性、子どもの権利を尊重した対応を、校長会や研修、対応フローを示したポスター等により教職員へ周知するとともに、いじめ事案が発生した学校には、必要に応じて弁護士や心理などの専門家である「いじめ問題等調査員」を派遣し、早期解決に向けた支援を行う。また、「SOSの出し方に関する教育」や年4回「いじめアンケート」を実施する等、いじめ等に起因する児童生徒の自殺防止を図っていく。また、ネットいじめの予防に対して、ICT機器の活用における自律的な指導の事例や教材を蓄積・共有し、情報モラル教育の実施を支援する。 ・特別支援教育支援員を、各校の状況を考慮しながら効果的に配置するとともに、巡回相談員を派遣し、一人一人の児童生徒に応じた具体的な支援方法や校内の支援体制づくりについて管理職、担任等に助言を行う。また、就学相談においては、望ましい就学先を判断するために教育支援委員会での審議を適切に行い、判断後のフォローアップ支援も積極的に進めていく。	

1 施策の概要

施策番号	30 (5-1-3)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	未来を切り拓く人材の育成と環境の整備	担当課	家庭・地域学びの課
施策	家庭・地域・学校の相互連携による教育力向上		
施策の 目指す状態	家庭・地域・学校が相互連携により教育力を向上し、子どもの学びや育ちを支えている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1 貧困	2 飢餓	3 健康	4 教育	5 ジェンダー	10 不平等	16 平和	6 水	7 エネルギー	13 気候	14 海洋	15 陸上	8 経済	9 イノベーション	11 都市	12 消費	17 実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール				○			○								○		○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	家庭・地域・学校が連携して、子どもの学びや育ちを支えている	%	(R3) 51.0	51.9	49.6	47.2		↑
	R 6 年度実績値の理由	小中学校PTAが実施する家庭教育力向上研修会への報奨金事業や少年育成センターの巡回活動、また、地域での育成会事業等により、一定の肯定的評価が得られている。							
	回答者自身の実践状況①	地域の子どもにあいさつや声かけをしている	%	(R3) 62.3	60.9	63.2	59.4		↑
	R 6 年度実績値の理由	地域でのあいさつ運動や、少年育成センターの巡回活動を継続して実施していることで、一定の肯定的評価が得られている。							
統計指標	地域をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査結果 (全国を100とした指数)	全国比	(R元) 小学生105.1 中学生107.9	小学生110.5 中学生107.4	小学生105.7 中学生104.7	小学生103.8 中学生103.3		小学生101.2 中学生100.4
	R 6 年度実績値の理由	家庭・地域学びの課	コロナ禍後、行動範囲や視野が広がるにつれて減少の傾向にあるが、全国値は上回っており、地域活動について考えることは定着していると思われる。						
	住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査結果 (全国を100とした指数)	全国比	(R元) 小学生128.1 中学生120.0	小学生147.4 中学生122.8	小学生141.3 中学生112.4	調査項目になし		小学生131.0 中学生117.3
	R 6 年度実績値の理由	家庭・地域学びの課	—						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	・ 市立公民館・市交流センターの重点事業として、親子を対象にした「親子学級」を実施し、保護者、地域の交流を図りながら、子どもの成長に係る内容の講座を実施した。 ・ 小中学校PTAが主催する家庭教育力向上研修会について、講師謝礼金として報償金を交付した。 ・ 親の学びの機会として、保健センターでの「7～8か月児健康教室」に併せて「家庭の学び講座」としてリーフレットを配布した。 ・ 少年育成センター職員が住民自治協議会を訪問し、あいさつ運動を含め、地域で子どもを見守ること・育てることの重要性を伝える活動を行うとともに、「子どもわくわく体験補助金」の活用が少ない地区を中心に、当該補助金の周知を図った。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGs の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
子どもと地域の関わりの希薄化が進んでいる。子育てに関する研修会・親子や世代間交流の講座の開催を継続し、家庭、地域、学校が一体となつて、子どもの学びや育ちを支えていく必要がある。	子どもたちを取り巻く環境の変化に対応し、家庭・地域・学校が連携を図りながら、一体となつて子どもの成長を支え合う取組とする必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
・ 市立公民館・市交流センターの親子の学び講座や世代間交流事業を継続して実施する。 ・ 小中学校PTA主催による家庭教育力向上研修会への報奨金について広くPRし、開催を促進する。 ・ 住民自治協議会との協働、市立公民館・市交流センター講座を通じて地域と連携した家庭教育の啓発を図る。 ・ 関係課との情報共有や連携を図る。	

5-2-1

1 施策の概要



施策番号	31 (5-2-1)		
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	豊かな人生を送るための学習機会の提供	担当課	家庭・地域学びの課
施策	生涯学習環境の充実		
施策の 目指す状態	ライフステージに応じた学習情報や学びの機会が提供され、多くの市民が学びを実践している。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール				○			○										○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
				R4	R5	R6	R7	R8		
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	公民館などで、学びの機会が提供されている	%	(R3) 43.6	43.1	41.4	42.8			↗
	R 6 年度実績値の理由	肯定的意見は60歳代以上に多く、日頃から広報誌や地区回覧を目にしている世代は市立公民館や地域公民館での学びの機会を認識しているので、一定数の肯定的評価が得られている。								
	回答者自身の実践状況①	公民館などで提供されている学びの場に参加している	%	(R3) 22.0	20.5	21.7	21.7			↗
	R 6 年度実績値の理由	就業されている世代では、講座に参加する時間が取れない、また、時間が合わないため、公民館の講座等に参加する人数は大きく伸びていない。								
統計指標	若い世代を中心に構成される団体が市立公民館・市交流センターを利用した割合	市立公民館を利用する全団体のうち、20歳代～40歳代中心で構成されている団体が市立公民館・市交流センターを利用した割合	%	(R2) 7.8	8.9	8.2	8.9			11.0
	R 6 年度実績値の理由	家庭・地域学びの課	コロナ禍後、若い世代の団体の活動は増加したが、その後は横ばいの状態である。コロナ禍後の活動は、安定して継続されている。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	第三次長野市生涯学習推進計画に基づき、「乳幼児期」「青年期」「成人期」「高齢期」の各ライフステージに応じた学び、また、ライフステージをつなぐ多世代の学びの機会を提供できるよう、生涯学習センター、市立公民館・市交流センターにおいて講座等の事業を実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGs の視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
市民一人一人が生涯のあらゆる場面で学習を深めることで、豊かな生活につながるよう、社会情勢の変化等に対応した講座を開催するとともに、多くの市民が参加できるよう周知方法の工夫を行っていく必要がある。	少子・高齢化や高度情報化など社会の変化が激しい中で、講座等で学んだものが自己を高めるとともに、地域づくりにつながるよう生涯にわたり学びの機会を提供する必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
・講座修了後に行うアンケート結果等を基にニーズの把握に努め、現在の社会情勢に応じた講座を企画する。 ・生涯学習センター、市立公民館・市交流センターで開催する講座等の情報を広く、分かりやすく提供し、新規受講者の増加を図る。 ・市民が安心して講座等を受講できるよう環境整備を行う。	

5-2-2

1 施策の概要

施策番号	32 (5-2-2)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと
分野	教育・文化分野	担当部局	教育委員会
政策	豊かな人生を送るための学習機会の提供	担当課	家庭・地域学びの課
施策	学習成果を活かした地域づくりへの参加促進		
施策の 目指す状態	あらゆる世代の人が市立公民館や市交流センターなどで地域を学び、地域づくりに活かしている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール							○								○		○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	公民館などで、地域づくりに活かされる学びの機会が提供されている	%	(R3) 43.8	43.1	43.1	42.7		↑
	R 6 年度実績値の理由	自治会の役員経験ある60歳以上世代や、小学生くらいの子育て世代の方は、地域で行われている行事に馴染みがあり、肯定的意見が多いと思われる。							
	回答者自身の実践状況①	公民館などで学んだことを地域づくりに活かしている	%	(R3) 13.1	11.5	12.1	13.8		↑
	R 6 年度実績値の理由	少しずつ増加の傾向である理由として、公民館・交流センター等の事業の成果が表れていると思われる。							
統計指標	市立公民館・市交流センターの「地域の学び」講座実施回数	市立公民館・市交流センターの「地域の学び」講座実施回数	回	(R2) 113	85	152	119		145
	R 6 年度実績値の理由	家庭・地域学びの課		「地域の学び講座」を市立公民館・市交流センターの重点事業と位置付け、すべての館で実施している。令和6年度は各館において複数回実施した。					

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	・地域づくりに生かせる講座の一つとして、受講者が地域の歴史や文化を学んだり、地域の実状や課題を知ることが目的とした「地域の学び講座」を企画し、市立公民館・市交流センターで実施した。 ・料理教室等についても、地域の学びの視点を入れたり、地元講師による講座を実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
講座等で学んだことを地域づくりに生かす意識を持っていただけるような事業の企画や運営を行う必要がある。	少子・高齢化や高度情報化など社会の変化が激しい中で、講座等で学んだものが自己を高めるとともに、地域づくりにつながるよう生涯にわたり学びの機会を提供する必要がある。 上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと） ・「地域づくり」を講座の趣旨としていることを受講者に意識してもらうとともに、学びの成果を地域づくりに生かすことを促していく。 ・地区における課題等を把握し、地域づくりに実践しやすい講座内容を検討する。

1 施策の概要

施策番号	33 (5-3-1)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと
分野	教育・文化分野	担当部局	観光文化部
政策	魅力あふれる文化の創造と継承	担当課	文化芸術課
施策	多彩な文化芸術の創造と活動支援		
施策の 目指す状態	子ども、高齢者、障害者など、あらゆる人々が日常から気軽に文化芸術に触れ、常に活発な文化芸術活動が行われている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール				○			○										○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価① 音楽、美術、演劇など文化芸術に気軽に親しめる環境が整っている	%	(R3) 39.5	41.6	41.9	40.6			↑
	R 6 年度実績値の理由	多くの世代で料金が高いと感じる人が多かったため微減							
	回答者自身の実践状況① 音楽、美術、演劇などを観たり、聴いたり、行ったりして楽しんでいる	%	(R3) 31.7	36.1	41.7	39.8			↑
	R 6 年度実績値の理由	複数の世代でそのような余裕はないとの意見があり微減							
統計指標	市有ホール施設の利用者数	人	(R2) 149,200	322,351	356,562	359,605			458,000
	R 6 年度実績値の理由	文化芸術課	長野市芸術館の稼働率が上昇したため微増						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	・長野市芸術館メインホールの稼働率は、過去2番目となった令和4年度を超える高い水準を維持した。第3期指定管理の初年度として「文化芸術でさらに心豊かで幸せなまちにーここからーつながるー」に沿い、ホールの特性や市民ニーズに応じた鑑賞事業、市民自らが主役となる参加型事業、質の高いサービスの貸館事業、劇場とまちがつながる事業を実施した。 ・市民が文化芸術に触れる機会として、野外彫刻めぐりを開催した。また、街中でも気軽に文化芸術に触れられる機会と文化芸術活動の発表の機会の創出として、表参道芸術音楽祭、街角アート&ミュージック、街角アート展などを開催した。さらに、次世代への伝統芸能の継承と世代や地域を超えた交流を目的に、獅子舞フェスティバルや伝統芸能こどもフェスティバルなどを開催した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
・市民の様々なニーズに対応した文化芸術の鑑賞機会を提供すること ・文化芸術について関心の低い市民に対し、日常の中で気軽に文化芸術に触れる機会を提供すること	・他分野、他機関との連携や民間事業者などとのタイアップも検討する必要がある
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
・各種事業について、あらゆる世代に対して魅力的なプログラムを提供できるよう、長野市文化芸術振興財団や市民団体、各施設指定管理者などと更に連携を図り実施する。 ・表参道芸術音楽祭や街角アート&ミュージックの充実、野外彫刻の効果的な活用など、市民が文化芸術活動に気軽に親しむ機会の提供に努める。	

5-3-2

1 施策の概要

施策番号	34 (5-3-2)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと
分野	教育・文化分野	担当部局	観光文化部
政策	魅力あふれる文化の創造と継承	担当課	文化財課
施策	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進		
施策の 目指す状態	有形・無形の歴史的文化遺産が適切に保存・継承・活用され、魅力ある地域づくりにつながっている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール							○									○	○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	地域の文化財が適切に保存・継承・活用されている	%	(R3) 52.2	54.4	51.6	52.2		↑
	R6年度実績値の理由	新型コロナウイルス感染症感染拡大が収まりイベントが再開されたことで、獅子舞をはじめとした芸術文化に触れる機会が増え、増加したと考えられる。							
	回答者自身の実践状況①	地域の伝統的な行事に参加している	%	(R3) 31.3	28.9	34.4	34.6		↑
	R6年度実績値の理由	地区役員を務めている・子育て中であるなど、回答者が置かれている状況が参加の有無に影響を与えるため、実績値は横ばいである。							
統計指標	文化財保護活動参加者数	指定文化財の保護に当たっている市民団体の構成員で活動に参加した人数	人	(R2) 5,255	2,614	2,246	2,363		6,400
	R6年度実績値の理由	文化財課	保存会等の構成員を中心に保存活動が積極的に行われているため参加人数は横ばいであるが、構成員の高齢化による担い手不足が課題となっている。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R6年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	- 文化財の保存・活用・継承に関する課題とそれらに対する方針・措置をまとめた「文化財保存活用地域計画」が文化庁の認定を受けたことを記念し、市民を対象としたシンポジウムとまち巡見を実施した。 - 松代城跡・大室古墳群などの保存整備事業を行ったほか、県宝真田信弘霊屋の保存整備や、国宝善光寺本堂ほかの保存活用計画に基づく防災施設整備等への支援を行った。 - 戸隠伝統的建造物群保存地区において、所有者等が実施する保存事業（4件）に対して支援をした。また、保存地区に特有の防災上の課題への対策を講じるため、防災計画に基づき、建物の耐震補強マニュアルの作成や、防災ワークショップの実施、小口径ホースの配備などの防災対策事業を実施した。 - 文化財の所有者・管理者研修会を開催し、文化財の保護・管理に関する意識の向上を図るとともに、所有者や管理者の負担軽減のために文化財保護補助金を交付した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
数多くの文化財が残る善光寺や戸隠・松代地区においても、市民や観光客に知られていない歴史文化資源が多く、魅力的な情報発信ができていない。また、文化財を活用した魅力ある地域づくりを進めるために、観光面での活用を視野に入れた情報発信や教育機関との連携、周辺環境整備が不可欠である。	少子高齢化などの社会環境の変化により、文化財の保存と継承に関わる担い手や、資金・資材が不足している。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
「文化財保存活用地域計画」に基づき、文化財の総合的な把握や保存整備を進めるとともに、市民団体や地域住民、庁内関係課と連携し、観光面も含めた文化財の活用を推進する。また、構築した文化財データベースを広く周知し、市民や観光客への情報発信を行うほか、教育機関と連携した地域の文化財の教材化等、学校教育での活用を進め、子ども達に文化財の魅力を知らせてもらうことで、文化財の保存・継承につなげる。	

5-4-1

1 施策の概要

施策番号	35 (5-4-1)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと
分野	教育・文化分野	担当部局	スポーツ部
政策	スポーツを軸としたまちづくりの推進	担当課	スポーツ課
施策	だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進		
施策の 目指す状態	安全・安心で気軽にスポーツや運動に親しめる環境が整い、市民が自分に合ったスポーツや運動を楽しんでいる。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール			○			○	○										○

2 指標の推移等

内 容			単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
					R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	スポーツや運動を気軽にできる環境が整っている	%	(R3) 53.5	53.7	48.6	49.0			↑
	R 6 年度実績値の理由	40～70代で肯定的な回答が50%を下回っている。また、前回調査と比較して全体の評価は上昇しているが、20代及び40～60代の評価は低下している。								
	回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(R3) -	-	-	-	-	-	-
	R 6 年度実績値の理由									
統計指標	スポーツ実施率	成人が週1回以上スポーツや運動を実施した割合	%	(R2) 59.9	60.7	63.8	58.8			65.0
	R 6 年度実績値の理由	スポーツ課	全体の割合が低下しているが、主に40～60代の割合が大きく低下しているため。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	- 健康寿命延伸に向けた保健福祉部との連携事業の「NAGANO体力健康チェックキャラバン」について、4回実施し、健康寿命延伸に繋がるスポーツ活動への動機づけが維持できた。 - 市が主催・共催するスポーツ教室について、安全対策を施した上で86教室を開催し、スポーツ活動を継続することができた。 - スポーツ施設の環境整備のため、大規模施設の長寿命化に関する工事及び設計業務を進めるとともに、アクアウイング温水2次ポンプ更新工事、市道更北798号線舗装工事等を実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
- 健康寿命延伸を図るため、高齢者の継続的なスポーツ活動の実施 - 若年～勤労世代の継続的なスポーツの習慣化 - 施設の長寿命化及び高機能化改修の実施	- 社会保障費の抑制等、健康寿命の延伸につながる活動が必要 - 事業効果を見極める必要がある。 - 健康づくりの場の整備
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
- 身近で手軽に参加できる健康スポーツ教室、スポーツ・パラスポーツフェスティバルなどスポーツイベント等を開催する。 - NAGANO体力・健康チェックキャラバンの実施により、中高年の健康に関する認識を促す。 - 部活の地域展開について、受け皿となりうる総合型地域スポーツクラブや競技団体等の運営基盤強化など支援していく。 - 公共施設個別施設計画に基づき安全・安心な施設改修を進めていく。	

5-4-2

1 施策の概要

施策番号	36 (5-4-2)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと
分野	教育・文化分野	担当部局	スポーツ部
政策	スポーツを軸としたまちづくりの推進	担当課	スポーツ課
施策	スポーツを通じた交流拡大の推進		
施策の 目指す状態	多くの市民が市内のスポーツ施設でスポーツを観戦するとともに、スポーツを通じた交流人口が拡大し、地域の活性化が進んでいる。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール							○						○				○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	プロスポーツや各種競技大会が盛んに行われている	%	(R3) 36.1	40.4	44.3	42.0		↑
	R 6 年度実績値の理由	前年度とほぼ同水準であり、長野マラソンの開催やプロスポーツチームに対する認知度が市民に定着してきている。							
	回答者自身の実践状況①	市内のスポーツ施設で、プロスポーツや各種競技大会を観戦している	%	(R3) 16.8	16.1	20.7	19.5		↑
	R 6 年度実績値の理由	前年度とほぼ同水準であり、プロスポーツや各種競技大会を観戦することが市民に定着してきている。							
統計指標	地域密着型プロスポーツチームのホームゲーム入場者数	プロスポーツチームのホームゲームの入場者数	人	(R2) 79,408	112,473	155,712	213,626		366,000
	R 6 年度実績値の理由	スポーツ課	信州ブレイブウォリアーズが新たに始まるBプレミア参入に向け大幅に入場者数を増やしていることに加え、AC長野パルセイロやヴォルティス長野などの入場者数も堅調に推移したため。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	■実施された大会等 ・長野マラソン・長野車いすマラソン ・長野市障害者スポーツ大会 ・全日本スピードスケート距離別選手権大会 ・ISUワールドカップスピードスケート競技大会 ・全国中学校スケート大会 ・信州長野平国ゲインング ■オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進 ・パリオリンピック・パラリンピック機運醸成事業（パブリックビューイング、展示） ・オリンピックデーラン長野大会 ■ホームタウンNAGANOまちづくり連携推進ビジョン ・各チームのホームタウンデーの実施 ・信州ブレイブウォリアーズキッズドリームデーの実施（11.26、2.18）
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
・国際大会や全国大会等の継続的誘致・開催 ・プロスポーツチームとの連携によるスポーツ実施率の向上、スポーツによる地域の活性化 ・オリンピック・パラリンピックの開催都市として、ムーブメントを推進	・スポーツによる交流人口拡大及び地域経済活性化 ・スポーツの大規模大会等開催に伴う経済波及効果とオリンピックムーブメントの効果を検証する必要がある
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
・国際大会や全国大会等の誘致開催に向け、競技団体や主催団体との情報共有 ・プロスポーツチームとの連携ビジョンに基づく取り組みの実施 ・プロスポーツチームのホームゲームなど、スポーツによる経済波及効果の検証	

1 施策の概要

施策番号	37 (5-5-1)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと
分野	教育・文化分野	担当部局	観光文化部
政策	国際交流・多文化共生の推進	担当課	観光振興課
施策	国際交流活動の推進		
施策の 目指す状態	多くの市民が国際交流に関心を持ち、国際交流事業に参加し、活動に関わっている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
																		
				○			○											○
主要な目的に該当するゴール				○			○											○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	国際交流が盛んに行われている	%	(R3) 12.3	14.2	17.4	15.3		↑
	R 6 年度実績値の理由	姉妹・友好都市交流について中学生・高校生等の相互訪問を継続して実施したが、姉妹都市・クリアウォーター市におけるハリケーン災害の影響で、一部交流は中止となった。							
	回答者自身の実践状況①	国際交流イベントに参加している	%	(R3) 3.2	3.0	4.1	3.2		↑
	R 6 年度実績値の理由	国際交流団体等によるイベントが実施された。当課が実施するイベント「ワールドフェスタ」の参加者数は、イベント当日の悪天候により、令和5年度の1割程度に留まった。							
統計指標	国際交流事業件数	市の国際交流事業補助金を活用し、市民団体が主催した国際交流イベントや留学生との交流事業などの件数	件	(R2) 2	5	8	7		13
	R 6 年度実績値の理由	観光振興課	市内の国際交流団体が主催するイベント等が継続して開催された。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	・姉妹・友好都市交流については、中学生・高校生等の相互訪問や語学研修生の相互派遣などを継続して実施した。 ・姉妹都市提携65周年記念として代表団の相互訪問を予定していたが、姉妹都市・クリアウォーター市におけるハリケーン災害により中止となった。 ・国際交流コーナーの運営や、国際交流員の派遣などを通じ、市民を対象とした国際交流の場や機会を設け、国際交流活動を実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
市民が国際感覚を持ち、国際交流の重要性への理解し、多くの市民が様々な分野で交流事業に関わる機会のある状態。 より多くの市民が国際交流事業に触れることができるように、イベント広報等を工夫する必要がある。	次世代を担う青少年の国際的な資質を高めることに大きく貢献していることから、より多くの青少年が国際交流事業に携わることのできる内容で実施する必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
・市内の国際交流団体に積極的な補助金活用の周知や情報交換を行い、国際交流事業の増進を図る。 ・国際交流事業については、より多くの市民に参加してもらえるよう実施方法や広報を検討し継続させる。 ・多くの市民に国際交流に関心を持ってもらうため、開催形式や内容の見直しを行い、引き続き「ワールドフェスタ」を開催する。	

1 施策の概要



施策番号	38 (5-5-2)		
分野	教育・文化分野	担当部局	観光文化部
政策	国際交流・多文化共生の推進	担当課	観光振興課
施策	多文化共生の推進		
施策の目指す状態	多様性を認め合い、互いを尊重している。また、文化や習慣などが異なる外国人にとっても、暮らしやすい環境が整っている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール	○			○		○	○										○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	(設定なし)	-	(R3)	-	-	-	-	-
	R 6 年度実績値の理由								
	回答者自身の実践状況①	外国の文化や習慣を理解しようと努めている	%	(R3) 29.4	31.0	30.4	29.3		↗
	R 6 年度実績値の理由	市内在住の外国籍住民や国際交流員等による多文化交流講座や国際交流イベントを継続して開催していることなどにより、約3割の市民に多文化理解の意識が浸透してきている。							
統計指標	国際交流コーナーの利用者数	国際交流コーナーで開催している日本語教室の受講者、生活相談の利用者数、イベントの来場者数	人	(R2) 5,582	6,663	8,517	6,454		9,800
	R 6 年度実績値の理由	観光振興課		当課が実施する国際交流イベント「ワールドフェスタ」について、イベント当日の悪天候により参加者数が令和5年度の1割程度に留まった。日本語教室の参加者数は、令和5年度より2割近く増加した。					
	SNSのフォロワー数	長野市国際交流フェイスブック等のSNSに対してフォローしている数	人	(R2) 866	-	31	330		1,000
	R 6 年度実績値の理由	観光振興課		長野市国際交流フェイスブック等において、日本語教室や国際交流イベント等の情報発信を積極的に行い、フォロワー数が増加した。					

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	- 国際交流コーナーにおいて、外国人住民に対する案内・相談対応を積極的に行った。 - 生活に必要な日本語の学習機会を広く提供するため、国際交流コーナーにおける日本語教室や、周辺市町村と連携してオンライン日本語教室を継続開催した。 - 国際交流コーナーホームページやSNSにおいて、市からのお知らせやイベント情報について、やさしい日本語・英語・中国語で発信した。 - 日本人住民の外国人住民への理解・関心を深めるため、市内在住外国人等が講師となり自国の文化を紹介する多文化交流講座を継続開催した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
国際交流コーナーについて、外国人住民等に対する情報提供及び日本語学習支援の窓口としての機能を強化し、多文化共生事業の拠点として運営を継続する。	外国人住民等が暮らしやすい環境を整えるとともに、地域での安定的な生活に必要な日本語の学習の機会を失わないよう、積極的に支援を行う必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
- 外国人住民等が日本語を学ぶ機会を広く提供するため、県及び他市町村と連携して、誰もが参加しやすい形式で日本語教室を開催する。 - 外国人住民等の国籍別構成比が変化していることから、現状に合わせた支援体制を検討し、国際交流コーナーでの案内・相談業務等を通じて外国人住民を支援できる人材を育成する。 - 市からの通知等に関して、外国人住民等にとっても理解しやすい方法で情報発信を行う。 - 地域での住民同士の交流につなげることを目指し、日本人住民と外国人住民が相互理解を深められる文化交流講座等を継続開催する。	